

総合的な学習の時間－４（第１学年） ４象限に分けて多面的に分析する力を育成する事例  
【学習活動の概要】

<p>1 単元名 わがまちの『通り』に生きる ー受け継ぐもの・拓くものー</p>													
<p>2 単元の目標 わがまち高田の代表的な「通り」を歩いて実感した保存継承・開発活性に関わる問題をまちづくりの課題として追究する活動を通して、まちづくりに関する様々な現象や取組に気付き、まちの住民としてまちづくりに対する自分の考えや生活の仕方を改善しようとする。</p>													
<p>3 評価規準</p> <p>【課題追究の力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保存継承・開発活性に関わる問題を、まちづくりの課題として多様な観点と関係付けながら追究している。</li> </ul> <p>【論理的思考の力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験活動から得た事象について、保存継承・開発活性、観光振興・住民生活等の異なる観点で多面的に比較・分析している。</li> </ul> <p>【コミュニケーションの力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの課題解決のために、自ら内省したり、共有できる考え方を探ったりしながら、立場や背景が異なる人と対話している。</li> </ul> <p>【自己評価の力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住民としてまちづくりについて考え続け、自分の生活の変容やよさを実感しながら、まちづくりに対する自らの学習を意味付け、振り返っている。</li> </ul>													
<p>4 教材 本単元では、高田を象徴する四つの「通り」（本町通り、寺町通り、雁木通り、上越大通り）を主な対象とする。そこには、地元商店街の存続、郊外型店舗の拡大、寺院の共同体機能、雁木や町家の文化財の在り方等、保存継承・開発活性に関わるまちづくりと人々の生活の特徴や問題がある。そこで、他地域との比較や多様な立場の人との活動で得た情報を、保存・開発、観光・住民の観点で多面的に分析することで、課題解決につながるまちづくりの要素（シンボル化、効率化や持続性、協議や参画など）を見いだす。そして、高田のまちづくりに対する自分の考えに合う要素を取捨選択・組織化しながら、住民として自分の生活の仕方を再考し、改善していくようにする。</p>													
<p>5 主な学習活動 (1)単元の展開（全52時間）</p>													
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="271 1276 375 1344"></th> <th data-bbox="375 1276 965 1344">学習活動</th> <th data-bbox="965 1276 1420 1344">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="271 1344 375 1478">第一次</td> <td data-bbox="375 1344 965 1478">○本町、寺町、雁木、上越大通りを歩き、各通りの気付きを整理し問題意識をもつ。(5)</td> <td data-bbox="965 1344 1420 1478" rowspan="3">・多様な気付きや問題を対話しながら分類整理する中で、保存・開発から観光・住民とまちづくりの観点を新たに加えていく。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="271 1478 375 1646">第二次</td> <td data-bbox="375 1478 965 1646">○他地域の通り（川越、浅草、横浜）を歩き、まちづくりの新たな観点をもつ。(15)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="271 1646 375 1780">第三次</td> <td data-bbox="375 1646 965 1780">○高田の通りとの比較から、共通性・差異性を整理し、課題解決の方向性を見付ける(4) ○多様な立場の人と「まちづくりコラボレーション」活動を行い、得た事象を関係付けてまちづくりの要素を見いだす。 (18:本時15/18)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="271 1780 375 1792"></td> <td data-bbox="375 1780 965 1792">○まちづくりの要素を活用して「まちづくり提案文」にまとめ、交流する中で住民として生活の仕方をとらえ直す。(10)</td> <td data-bbox="965 1646 1420 1792">・まちづくりに対する自分の考えに必要な要素を取捨選択・組織化して提案文を発信・交流していく。</td> </tr> </tbody> </table>		学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	第一次	○本町、寺町、雁木、上越大通りを歩き、各通りの気付きを整理し問題意識をもつ。(5)	・多様な気付きや問題を対話しながら分類整理する中で、保存・開発から観光・住民とまちづくりの観点を新たに加えていく。	第二次	○他地域の通り（川越、浅草、横浜）を歩き、まちづくりの新たな観点をもつ。(15)	第三次	○高田の通りとの比較から、共通性・差異性を整理し、課題解決の方向性を見付ける(4) ○多様な立場の人と「まちづくりコラボレーション」活動を行い、得た事象を関係付けてまちづくりの要素を見いだす。 (18:本時15/18)		○まちづくりの要素を活用して「まちづくり提案文」にまとめ、交流する中で住民として生活の仕方をとらえ直す。(10)	・まちづくりに対する自分の考えに必要な要素を取捨選択・組織化して提案文を発信・交流していく。
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点											
第一次	○本町、寺町、雁木、上越大通りを歩き、各通りの気付きを整理し問題意識をもつ。(5)	・多様な気付きや問題を対話しながら分類整理する中で、保存・開発から観光・住民とまちづくりの観点を新たに加えていく。											
第二次	○他地域の通り（川越、浅草、横浜）を歩き、まちづくりの新たな観点をもつ。(15)												
第三次	○高田の通りとの比較から、共通性・差異性を整理し、課題解決の方向性を見付ける(4) ○多様な立場の人と「まちづくりコラボレーション」活動を行い、得た事象を関係付けてまちづくりの要素を見いだす。 (18:本時15/18)												
	○まちづくりの要素を活用して「まちづくり提案文」にまとめ、交流する中で住民として生活の仕方をとらえ直す。(10)	・まちづくりに対する自分の考えに必要な要素を取捨選択・組織化して提案文を発信・交流していく。											
<p>(2)本時の学習 これまでの活動で得た事象を付箋にメモし、4象限の「まちづくりボード」を使って多面的に分析する中で、課題解決につながるまちづくりの具体的要素を見いだす。</p>													
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①体験活動で得た事象を付箋にメモし、「まちづくりボード」に整理する。 ②4象限の観点を関係付け、各事象を比較・分析する中で、具体的要素を見いだす。</p> </div>													

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領 第4章 総合的な学習の時間 第3の2の(2)において、「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。」と示されている。

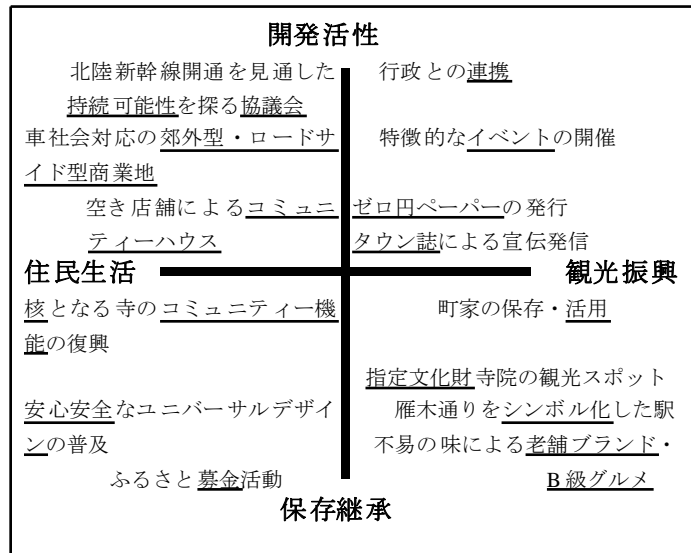
体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることは、問題の解決や探究活動の過程において、特に大切である。そのためには、分析とは何をすることなのか具体的なイメージをもつことが必要となる。例えば、集めた情報を共通点と相違点に分けて分類したり、時間軸に沿って並べたり、原因と結果に分けたり、変化や結果を予測したり、現実社会の事象に当てはめたり、多面的・多角的に分析したりすることなどが考えられる。

本事例は、四つの通りにおけるまちづくりの課題に関わる探究活動「まちづくりコラボレーション」を行う中で得た情報を、4象限の「まちづくりボード」に位置付けて関連性を分析し、まちづくりの具体的な要素を見いだす場面である。収集情報を4つの視点から比較し、関連する要素を発見するという論理的な思考力を育成するために、4象限に分けた「まちづくりボード」にメモを整理しながら対話する活動を行うことにした。

【言語活動の充実の工夫】-4象限の「まちづくりボード」で対話しながら分析する-

本町、寺町、雁木、上越大通りを歩き、各通りの気付きを整理する中で、「保存継承」と「開発活性」という観点を発見した。さらに他地域の通りと比較する中で、「観光振興」と「住民生活」という新たな観点を発見した。一つの「通り」を選択し、探究活動を再開したところ、町家見学、浄興寺やまち活性化組織へのインタビュー、本町イベント参加、店員体験、タウン誌調査、まちづくり募金参加など8つのグループができた。

本時では、この四つの観点を軸とした「まちづくりボード」を分析の拠り所として、まちづくりについて考える。探究活動で「何を大切にしたいまちづくりか」をメモした付箋紙を4象限の「まちづくりボード」に位置付け、比較しながら各観点で分析し、関連する要素を見いだす対話活動を次のようなかたちで行った。



- A: 寺町通りにある浄興寺は江戸時代からの歴史的建造物を保存する観点から、指定文化財にすることで観光名所になったんだと思う。
- B: 観光地化とは逆の住民の立場で浄興寺開催のコンサートに参加したんだけど、寺は本来、地域住民のコミュニティーをつくる役割を担っていた歴史があって、浄興寺を核としてコミュニティーの復興を大事にしていることが分かった。→住民生活×保存継承に分類
- C: その核の考え方は、伝統の雁木通りをシンボルにした高田駅の建築と共通すると思う。
- D: それは、本町通りの昔ながらの味を売りにして保存する老舗ブランドと同じとらえかな。
- E: まちづくり協議会の方が言う通り、本町通りは活性化するためにも北陸新幹線開通の未来を見通して持続可能なまちづくりを住民と協議して探り続ける必要があると思った。
- F: 同じように地域住民と協議した結果、町家を保存するだけでなく、カフェなどに活用しながら観光地化するアイデアが挙がっているんだよ。

4象限の組合せ（保存と観光地化・生活充実や開発と観光地化・生活充実など）で分析することで、情報の関連性を見だし、それを多面的なまちづくりの具体的な要素として明らかにしていく姿を具現することができた。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：④、⑥（※分類番号はP5表参照）